

學の一大論文とも見られ得る。附圖の地質圖はかなり立派ではあるが地質圖にして道路を赤線で表はす如きは以ての外である。猶從來の地方地質誌論者に御願ひしたいのは英獨の外國語を横文字で入れる場合には充分校正して欲しいことである。本書の横文字を入れた外國語の三分の一には誤植がある。之は人を誤まること甚だしい。寧ろ入れない方が編者にとつても我等讀者にとつても幸福である。それにしてもこの美しい努力のかゝつた地質誌の印刷部数が三百部だと云ふのは甚だ惜しい氣がする。(中村)

## 雜報

### ○地球學團第四回講習會概報

我等の地球學團は人文地理學の諸問題を學團員と共に攻究し併せて今後吾等の向ふべき方針を獲得せんが爲め第四回講習會を開催した處、遠きは鹿兒島出水より又は朝鮮全羅南道島城より北は秋田本荘より來會する團員もあつて會するもの七十六名、非常な盛況を極めた、時恰も學年末で中學は入學試験、小學校は卒業期といふ過渡期に際したにも不拘かく多數の參會を得たこと、並に第一回の講習以來無缺の參集者の十數名を下らないことなど、いかに我等の學團に心強い感を抱かしたことであつたらう、左に日記を掲げて概況を報ずる。

三月廿七日 小川先生の近畿の聚落と住民、石橋先生の經濟

地理總説、田中阿蘇慶先生の佛領阿弗利加の居構と分布、小牧先生の原始人類の居住狀態、づれも多大の印象を團員に與へた。  
三月廿八日 引きつゞいて小川、石橋、田中、小牧四先生の講演で今日は田中先生はアルプス山地の生活を話された。  
三月廿九日 小野先生の國土論小牧先生のオスボンの石器時代論、藤田先生の屏風の概説があつて午後三時から、京大天文臺に至つて十二時の大望遠鏡をはじめ其他參觀、同じく文學部陳列館考古學及地理教室のあらゆる參考品を參觀種々親切な説明を承る。

三月卅日 内田寛一先生が武藏野の居住地理を説明せられ、小野先生は國土論を講了、終つて午後研究發表會があり第一席に小川博士は研究發表の必要と技量とに關して訓話、第二席に小館軍三君は備中に於ける平野の生成を論じて微に入り細を穿ち第三席小野純三君は秋田縣羽後本荘附近小友川の甌穴の成因第四席は藤本好君の大阪府郷土地誌について、第五席小牧實繁君は武居氏著の都市圖の紹介をせられ、終つて樂友會館に行つて茶話會を開く、例によつて會員全部の感想談が出る、和氣纒々の中に午後七時半散會、更らに有志者は京大天文臺を見學して、星雲、月などを大望遠鏡で覗いてみた誠に天文臺の助手の方々に深甚の謝意を表せざるを得ない。

三月三十一日 内田及藤田兩先生の講演が終つてから、第二日の研究發表會に移つた、第一席小田内通敏君は九州四國中國に於ける人口移動の材料蒐集中に併せ得たる各縣の人文地理上の好題目を述べ更らに人文地理學研究の方針をのべて大氣焔を

上げられ、第二席三澤勝衛君は諏訪湖畔に於ける新成デルタの上に出達する聚落の由来と現状を細論し、第三席に内田寛一君は關東平野の臺地に於ける人文現象を豊富なる寫眞によつて説かれ、第四席に藤田元春君は比叡八瀬方面見學要項を示して天台初期佛寺の特徴と八瀬民家の特徴とを講ぜられ又前日以上に大成功を収め三時三十分より市内島津製作所參觀。

四月一日 比叡山八瀬方面の見學は會するもの凡七十名、田中阿歌麿内田寛一の兩先生迄も參加された位で大々的成功であつた、午前八時半、出町柳驛發の叡山電車に乗つて終點の公園に至り、中村教授上治講師から地質の説明があつた、蓋し八瀬大原の谿谷は北は途中峠を越えて阿曇川に通ずる一大斷層谷で南は紀和高原の中央を通ずる大峰火山脈に及ぶものである、従つてこの附近では谿谷の東は主として接觸礫質をうけた砂岩であるが、谿谷の西には角岩が露はれて地層の喰違のあるのが明であることの説明をきき、礫質をうけた砂岩粘板岩の中に生じた葦青石の採取をやつて、さて愈ヶアルカーで傾斜約三十五度の索道を昇つた、それから四明岳に昇つて白河の花崗岩のうけた浸蝕の状況から琵琶湖及山城盆地の大觀を撞にして午前十一時根本中堂に達した、延暦十三年創立の古刹に詣で、寛永十九年に再建された單層入母屋の銅瓦葺桁行十一間梁間六間の大殿堂參觀、内陣の陣の構造を見て同じく大講堂の雄姿を仰ぎ辨慶茶屋で中食、やがて西塔に行つて擔ひ堂をぬけて寶篋院、佛足石などを見る、こゝに弘仁十一年に出來た相輪塚がある、法華經大日經二十三部が銅桶の中に藏してあるといふことから

藏之名山といつた支那人の古い考に共鳴する阿員も夥からず、道を轉じて八瀬村の方へ降りる、普觀寺に達する中途で山内最古の木造建築である琉璃堂三間三面を見學室町時代の手法又は瓦燈窓の説



員團の學見形地てり登に岩門將岳明四

明をさき、

テント村の上を通つて

わがて下山

誠に急峻な

坂路で一行

大弱り、中

にも田中先

生の如き餘

程疲勞も感

じられたら

しい、八瀬

村では村長

玉川政治郎

氏宅を見學

してカンド

(事務所)、デ

(應接室)などの配置をはじめ、宅地の隅に今も残つてゐる「てら」隔離家屋の様子など見學、それから八瀬で尤も古い延享四年改築の鈴木武次氏宅を見て、カンドに存在する大甍の構造を

知り、村役場に行つて、この村の所有する御給旨や其他の古文書を一見、更らに有名な釜風呂を見て午後三時半八潮驛に出で電車にのつた十二分間ではや出町に歸着、一行、こゝに解散して連日の勞を癒ひめて、第四回講演會の豫定を終つたのである。こゝに指導講師であつた上治藤山の兩先生に厚く感謝の意を表しておく。(T生)

### ○地球學團岡山支部近況

○第九回例會。高梁川改修工事を視察す、十一月十四日午前八時十分岡山發同四十五分西阿知驛に下車し、西原、水江、柳井原、古地、酒津等の各地を内務省出張所員の案内により巡視す、なほ酒津燒の竈元及び酒津の兒島虎太郎畫伯の宅を訪問し、午後五時歸岡す、來會者二十三名。

○第十回例會。十二月八日師範學校内に開會、來會二十六名、左記講演ありたり。

- 一、滿鮮支旅行談 師範 浦上宗衛君
  - 二、ロシアの政治組織について 同 三浦唯宣君
- 第十一回例會。大正十五年の初回にして一月十七日關西中學校に於て開會、左記講演及び會計報告ありたり。

- 一、東洋に於ける炭田の分布 師範 浦上宗衛君
- 二、星の光度 關中 水野千里君
- 三、會計報告は略す

右終つて三門に在る「タオル」製織會社を參觀し、次で數丁離れたる萬成山の花崗岩の切出狀況を見學し、光田石材切出場よ

り岡山石材株式會社等を巡り午後四時半歸岡す、來會者二十名。  
○第十二回例會。二月七日岡山師範に開會、來會者二十六名、左の講演ありたり。

- 一、支那人の性質について 清心高女 岡崎猪一君
  - 二、四國橫斷旅行談 岡山高女 寺尾勝年君
- 右講演終了後餐食を共にし、午後三時半散會す。

### ○朝鮮、北海道、廣島縣に落下した隕石

大正

十三年九月七日午前六時過朝鮮全羅南道羅州郡鳳凰面雲谷里(北緯三四度五六分、東經一二三度四六分)の稻田中に重さ二百乃至三百五十匁の隕石が落ちて破碎せられた、朝鮮總督府地質調査所で分析の結果、百分中鐵二〇・三三、硅酸三七・二六礬土、四・九四、ニッケル極少量、硫黃稍多量、カルシウム少量、マグネシウム稍多量で、礬は無く、比重は三・五、其一破片(重さ三十二匁)は現に仁川觀測所に保管せらるゝ由(十五年三月天文月報)又大正十四年九月五日午後四時頃、北海道空知郡沼貝町宇光珠内農業田中勝氏、屋敷裏約百間を離れた、畑地に隕石が落下したのを田中氏が目撃した、同氏は突如雷鳴の如き騒音に續て飛行機のプロペラの如き爆音を聞き、眼前に黒い物體が二個、裂帛の音を立て、落下したのを觀たので、早速其の中の一つを得て(他は搜索しても得ず)、珍藏して居るといふ。今井半次郎氏の實見によれば、大體扁平な正三角形に近い二等邊三角形で、厚さは一〇乃至一・五程、一面は殆んど平かで、他面は多少凸凹があり、重さは約九十五匁あつた、破面は灰白色で、時々緻密な粒狀構造を示し、磁鐵鐵礬と橄欖石と思はるゝ礦物が

認められた由(大正十五年三月地學雜誌)、嘗て本誌四卷第五號に、大正十四年九月十三日午後七時三十分、廣島縣沼隈郡浦崎村宇道越八三番屋敷に落ちた三角形重さ四百匁の隕石が報道せられた、斯く最近一兩年間我領土に落ちた三個の隕石が、何れも偶然落下の模様が目撃せられたのも奇であるが、其落下が何れも九月上旬であつて、一年中で流星の雨下する八月に近かつた事は今後の爲め一寸注意に値する。(S、I生)

○大正十四年本邦重要鑛山鑛産額 (十五年二月發刊、日本鑛業會誌所載、鑛山局調査)

鑛種	大正十四年	大正十三年	増減比較	歩合
金(匁)	二,三〇,六二五	二,〇五,八八四	△印ハ減少	一〇・三
銀(匁)	三,九五,七五五	三,三三,五三六	三,六〇,〇三三	三・五
銅(斤)	一〇四,二六,一五二	一〇,七九,六五五	三,五七,六九七	三・五
鐵(佛噸)	一四,六六,〇〇〇	一五,一四,四五五	△六,四八五	△〇・九
石炭(佛噸)	二九,三三,七〇〇	二七,六〇,〇七〇	一,七三三,六三〇	四・九
石油(石)	一,五七,七五四	一,五〇,〇〇八	七,七四六	一・六
硫黃(佛噸)	四,〇〇,〇〇〇	四,一五,九六	△一五,九六	△〇・六

重要鑛山石炭産額地方別

地方	大正十四年	大正十三年
福岡縣(佛噸)	一六,五五七,五五五	一五,八三三,四〇六
北海道	五,〇四〇,四八一	四,九四七,七五五
福島縣	一,八四四,二二五	一,五二七,七五五
佐賀縣	一,六三三,〇〇一	一,五三三,一四一
山口縣	一,六七七,七三三	一,三三三,六六六

雜報

長崎縣 一,四三六,六一  
茨城縣 一,三三三,四四  
計 二,七六九,〇五

○鑛泉取締規程の新縣令

鑛泉井の亂掘が、從來溫泉の溫度や湧出量に重大な影響を來した實例は、別府、熱海等有名な溫泉場に屢々見聞した事で、識者の弊を正す所であるが、鳥取縣では此弊を矯正せん爲め、大正十二年に溫泉協會を組織し、溫泉の保護、改善、發展等に努めて居るが、尙亂掘の弊を十分に制止し得ない様子であるのは、吾人の遺憾とする處である。最近和歌山縣では、二月廿六日縣令第十三號を以て、鑛泉工事取締規則を發布した、此規則によれば溫泉でも冷泉でも地下より噴出する蒸氣でも、凡て之を試掘せんとするものは、從來の鑛泉湧出地點より相當の距離を置き、出願して知事の許可を得るを要し、鑛泉の修繕、増掘又は使用者の異動、試掘の竣工は、凡て届出でしめ、公益上又は鑛泉取締上必要と認められた時は、知事は許可を取消し、原形に復せしむる事に爲つて居る、近年溫泉試錐漸く勃興し來り、溫泉場は何れも慎重なる保護と警戒とを要する折柄、和歌山縣が進で鑛泉取締の新例を開いたのは、頗る機宜に適する處置であつて、十分に其効果を擧げしめ度いと同時に、幾多の溫泉場を有する府縣は、取敢へず、之に學ぶ所が無くてはなるまい。(杞愛生)

○天然に出づる含水珪酸礬土の成因

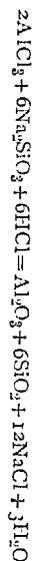
水酸化アルミニウムと珪酸が  $Al_2O_3 : SiO_2 : H_2O = 6$  なる割合に存在すれば  $Al_2O_3 \cdot SiO_2 \cdot 2H_2O$  なる組成の化合物を洗滌せしめこれを保ち置か

ばカオリンに似たる物質となることを考慮してこの新法則に準據してカオリンの成因を説明せんと試みられたり。著者等によれば

長石がカオリンに移り變る場合は第一構梯として長石が次の如き分解を行ひ



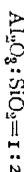
而して或適當なる條件の下に於てこれ等の生成物中の後の二者が再度結合してカオリンと成ると言ひ



なる反應を用ひて  $\text{Al}_2\text{O}_3$ 、 $\text{SiO}_2$  の凝集及び水中の  $\text{P}_2\text{O}_5$  の影響を研究し



なる弱き酸性溶媒中に於てのみ其目的に對する完全なる洗滌が行はれることを發見し。以上の條件のもとに於ては何れの場合にも



なることを實驗により證明せられたり。

Über die Genesis der natürlichen

Aluminiumhydrosilicate. R. Schwarz & R.

Walcker. Z. anorg. Chem. 1925. 145 304. 藤井抄

### ○蘇丹マクワル堰の竣工

英國は蘇丹に於て一九二一年春以來青ナイルの水をゲシラ平原に給する目的にてセナルマクワルに一大堰建設に従ひしが去る一月二十一日竣工式を擧げたり、同堰の水により灌漑せらるゝ主なるゲシラ地域は現在三

十萬噸なるも終局には三百萬噸を灌漑すべく、其堰は幅殆ど二哩長さ十五哩に及び湖水の觀あり、溝渠は九千哩金額約二百萬磅の棉花生産を得べし。

ゲシラ平原は青ナイル合流地よりも南即上流にある兩河間の平原にして百萬フエダインの面積を灌漑しうべきも現在ばたゞ三十萬フエダインのみ栽培せらるゝ、この堰は千四百億ガロンを貯ヘナイル河床より二十六米高地を占め、最低部よりの高さ三十六米に達すといふ。

### ○江蘇省無錫の工業

無錫は江蘇省の中央に位し大運河の要衝なりしが上海南京間鐵道の便あり、太湖の航運を利用しうべく、江蘇浙江西省に跨る大消費地を控え、地方人の旺盛なる企業心と相俟て、利權面政思想が歐戰の好機と合したる爲めに今や上海につぐ大工業地と化せり、而かも其諸企業が全く支那人獨自の企業經營によること又大に注意に價すべし、過去十年以前には無錫といへば單に沿線の米籩生糸等の商業中心地に止りしも、今や生絲工場十八、紡績工場六、製粉工場六、染織工場一、豆油工場二、石鹼工場二、セメント工場一、其他三十有餘の小工場あり、投資三千萬弗を超え従業勞働者四萬人以上にして、無錫には遊金と游民なしと唱へらるゝ、記者も一昨年蘇寧の間を通過したる際、窓外尤も活潑なる一大工業市として刮目したる所なるが就中製絲場の廣大なるに一驚せる程にして釜數五、九四八、勞働者一萬八千人産額二二五〇〇俵、千四百萬兩に上る外、之に蘭取引高八百萬兩を加ふれば二千二百萬兩の巨額の取引あり他に層絲の輸出あり、六十萬の同地方民中三

分二は何れも養蠶業に依りて衣食し耕作地四萬畝中一萬二千畝が桑田に充てられ居れり、工場の主なるは振藝、乾生、徳興、錦記、泰孚、裕昌、源康、鎮綸、永盛、乾元、瑞昌、隆昌等に於て地大湖に近く氣候及濕度の適順なること、養蠶地の中心に於て位するによりて發達せること、恰も我國常州閩谷に類すといふべし。製粉業及紡績工業の勃興せるも亦同様の地理的事情に刺激せられたりといふを得べし、棉花の生産地常熟揚州よりの距離は上海が其原料を印度又は陝西より供給せらるゝに比して遙かに利あり、勞働賃金又上海よりも低廉なるの益ありといふ。

### ○大英帝國航空路會社

舊曆二十九日、イムペリアル

エアウエー會社長ケツヂスの説明によれば英國の民間飛行は當初四ヶの異なる會社によりて經營せられ各社各特殊の設備特殊の需要に應じ冗費多かりしも、右航空路會社設立後一箇の機關によりて經營せらるゝこととなり、構成組織の統一を見るに至れり、現在倫敦巴里間の定期飛行は最發達せる域に達し昨年度は最頻繁なる月には兩地點より一日三回乃至四面の飛行あり、七月には本定期を試験的に隔日定期とし春夏の際は毎日一回定期飛行の可能なるを證し、倫敦伯林間定期はアムステルダム及ハノーバーを寄陸地として六月に開始し、アムステルダムに於て更にスカンデイナヴィア並獨逸各都市との聯絡を保つに至り過去一年間に飛行距離八十二萬五千哩旅客一萬一千人貨物郵便物輸送六百噸に達せり今や英國航空省はこの會社と契約して英本國及英屬領植民地並屬領地相互間飛行聯絡計畫をばじめ、エンヂン三個裝置飛行機を使用し郵便貨物及旅客の二週間定期運

輸を條件として、政府より向ふ五ヶ年間年額九萬三千六百磅の補助金を得本年度よりロンドン、カイロ、カラチ間(パクグー、パスラ經由)を實行するに至れり、其距離約二千五百哩英本國印度間は僅に五日間に短縮せられ、もし夜間飛行を行ふときは更に短縮せらるべし、蓋し年末にはこの第一回飛行を見るならんか。

## 質疑應答

問オーロラ に關する最近の學說を承りたし(大阪Y生)

答 十八世紀の始め英國のハレーがオーロラと地磁氣との關係を感知し、十九世紀の中頃ツルフが太陽の黒點とオーロラとの關係を立證しやがて一般に磁氣と電氣との物理的關係が明にされると共にオーロラが何等かの電氣的又は磁氣的現象であるといふ風に考へる事になつて十九世紀末には、ピルケランドが大規模の室内實驗を試み、磁石として地球に對する太陽陰極線の作用であることを證明した、其後ノルエーの學者達が色々これを觀測したところ、オーロラの最も頻繁なるは地上 $100$  軒乃至 $130$  軒の高で、最低限度は $80$  キロ、最高は七八百軒であることを知つた、果して然りとするとこの現象は普通氣象學者の取り扱ふ範圍よりも遙かに高い大氣の現象で、しかも $80$  軒から七八百軒の高さまではオーロラが出現し得る何等かの超氣象的雰圍氣が存在することを示めすのであるから、こゝでこの